

川崎市と国立大学法人 東京藝術大学が アートを介したコミュニティ形成事業に係る連携協定を締結しました

令和5年6月、川崎市は国立大学法人 東京藝術大学（住所：東京都台東区、学長：日比野 克彦、以下「東京藝術大学」という。）とアートを介したコミュニティ形成に向け、連携・協力して取り組むことに合意し、協定を締結しました。

本市では、誰もが文化芸術に触れる環境を創出する「アート・フォー・オール」の実現を目指して取組を進めており、この協定により、アートに関する専門的な知見や蓄積されたノウハウを持つ東京藝術大学と連携することで、双方の資源を活かし、効果的に事業を展開してまいります。

1 経緯

東京藝術大学は、本市が参画している国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）に採択された、「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」^{*1}の代表機関であり、多くの自治体や企業等と協働し、様々な事業展開をしております。

また、東京都美術館と東京藝術大学が展開している『とびらプロジェクト』^{*2}を参考とし、本市における「アートコミュニティ形成事業」を効果的に推進させるため、協力連携して取り組むこととなりました。

2 連携事業概要

『アートを介したコミュニティ形成事業に係る連携』

- ・ 事業の主体となるアートコミュニケータ^{*3}30名程度を公募し、東京藝術大学と連携しながらスタッフや専門家による様々な講座を通して、活動を支える考え方の共有や、アートを介した対話を重ね、コミュニケーションを豊かにする方法を学びます。（参加者は令和5年12月頃から募集予定。）
- ・ アートコミュニケータが講座で学んだことや、それぞれの得意なことを持ち寄り、市内の文化資源や福祉・医療の現場などとも連携し、アートを軸にコミュニティを育む活動に取り組めます。

《活動例》

- ・ 子どもたちや高齢者を対象とした、アート作品の「対話型鑑賞」プログラム
- ・ 市内の歴史的な場所やモノ、パブリックアートなどに触れ、そこに流れる時間やストーリーを感じるプログラム
- ・ 文化施設の中を車いす等でゆっくりめぐってお散歩プログラム など

3 期待される効果

この協定により、双方の資源を活かして「アートを介したコミュニティ形成事業」を進めることで、市内の様々な文化芸術資源等を用いて、誰もが文化・芸術に触れる機会や交流が数多く創出され、「対話のある社会」、「多様性の尊重される社会」、「人々が孤立しない社会」などの実現を促進し、社会的課題の解消に取り組めます。

また、今後整備を予定している新たなミュージアムの活動につなげるなど、本市の進める「アート・フォー・オール」の実現を目指して取組を進めてまいります。

※1：共創プロジェクト「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」

ホームページURL→ <https://kyoso.geidai.ac.jp>

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム」に採択された、産学官の共創プロジェクト。令和5年3月育成型から本格型へ昇格。川崎市からは、「アートを介したコミュニティ形成プロジェクト」及び「インクルーシブ音楽」の実施について協力連携していきます。

※2：「とびらプロジェクト」

ホームページURL→ <https://tobira-project.info>

東京都美術館と東京藝術大学が連携して行っている「アートを介してコミュニティを育む事業」です。参加者（愛称「とびラー」）は、学芸員や大学の教員、第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームと共に美術館を拠点に活動しており、人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、美術館に集まる多種多様な人びととのコミュニケーションを大切にし、そこで育まれた新しい価値観を社会に届けています。平成24年から毎年募集を行い、令和5年には12期生を迎えています。

※3：アートコミュニケータ

アートを介した他者との対話によるコミュニケーションを大切にし、新たな価値を見出し、人とアートのつなぎ手として自発的に活動する人々。

【問合せ先】

川崎市市民文化局文化振興室 山本

電話 044-200-2416

E-mail:25bunka@city.kawasaki.jp